

発熱する植物 ザゼンソウ



ザゼンソウ

文と写真◎岡野 通明

Okano Michiaki

新素材研究拠点

ザゼンソウ（座禪草）をご存知でしょうか。日本では北海道から中部地方の山間の湿地や、冷涼な谷地などに生息するサトイモ科の多年草です。初夏の湿原を彩るミズバショウと形状がよく似ていますが、ミズバショウほどの華やかさはありません。

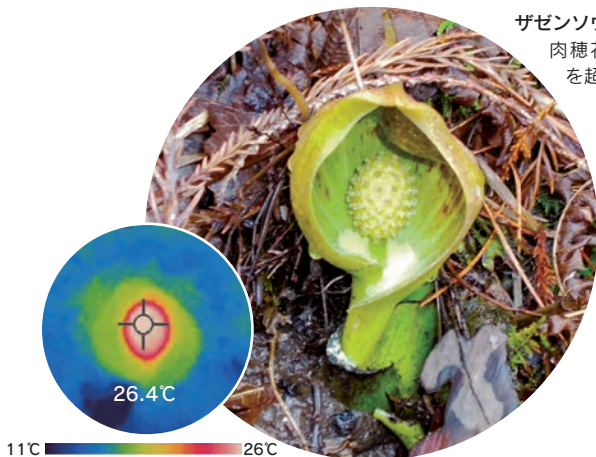
葉が開く前の1月から5月頃にかけて開花します。暗紅色や緑色をした大きな花弁のように見える部分は「仏炎苞」と呼ばれ、中に小さな花の集まりである肉穂花序を包んでいます。その姿が、まるで光背を背に座禅を組むお坊さんや達磨さんみたいです。から、ザゼンソウ、ダルマソウと呼ばれます。

童話「エルマーのぼうけん」（ルース・スタイルス・ガネット著）には、スカンクキャベツという植物を食べる「りゅう（ドラゴン）」が登場します。じつは、この風変わりな英名の植物は、開花のときに昆虫をおびき寄せるために匂いを出すザゼンソウのことです。さらにザゼンソウには、とても珍しい特徴があります。それは発熱すること。長野県下にあるザゼンソウの群落を、物体から放射される赤外線を使って温度を推定できる熱画像装置を使って観測してみました。

すると、開花してからあまり時間が経っていないと思われる株の肉穂花序は26℃を越えていました。周辺の環境温度は10℃ほどで、谷地は既に陽が陰っていたことから太陽光に温められたわけではありません。熱画像装置で谷地を観ると、まるでそこかしこに暖かな灯をともした行灯が並んでいるようです。中には、2株のザゼンソウが身を寄せ合うように谷地の寒さに耐える姿もありました。ザゼンソウの花言葉は「沈黙の愛」「ひっそりと待つ」だそうです。♣

ザゼンソウの温度分布

肉穂花序の温度は26℃を越えている。



寄り添う2株のザゼンソウ

肉穂花序の温度は周辺の環境温度11～12℃より高く、17℃もある。

